

# 会報

# こぶし

発行 花北地区  
コミュニティ  
協議会  
編集 総務企画部

10月5〜6日花北振興センターにて

## 芸術文化活動の高揚に向けて 第27回花北地区文化祭を開催

教育文化部長 松田 廣邦

花北地区コミュニティ協議会では、地区民に芸術文化活動の発表と鑑賞の機会を幅広く提供し、その意欲を高めると共に地区民相互の交流を深める場として毎年この文化祭を開催しております。

今年も多くの作品出品者と関係者のご協力を得て、文化祭を開催することが出来ました。

今年の展示作品を拝見いたしました。例年にも増して多種多様な作品が展示されました。

ひとときわ目についていたのが、帆船米寿を祈念して製作したと云う「日本丸」。この作品は、細部まで再現されておりました。オープニ

ングは、昨年好評を博した琴の演奏で、純和風の音色が今年もまた出席者を魅了しておりました。書道、絵画、写真等はその経験が作品にも自ずと現れてくるもののようにです。手芸部門には布を活用した各種の作品が、大作から小物までコーナーいっぱいに表示され、訪れる人の目を楽しませておりました。

花巻、桜台各小学校、花巻北中の生徒さん方に図画、ポスター、工作等の作品を提供していただきました。どの作品にも子供らしい新鮮な感性と純粋な表現がなされてお

映り、子供らを見直す良い機会になったような気がします。華道部門では、各流派の作品を一堂に会して拝見することが出来るこの文化祭の醍醐味の一つになっています。そこは、優雅、繊細、奥深さを感じさせられる空間となっていました。花、草、木は生きもの、展示までの心配りも大変なことではなかったでしょう。地域によっては、伝統の花巻人形を継続的に子供らと一緒に取り組む、それを展示している地区もあり、伝統継承の大きな役割を担っているように思えました。

また、色々な紙を使つての作品の中では、93歳の方が、ご自分の生きがいとしてパラソルドールを教えているとのこと。様々な紙を「くす玉折り」で人形や造形を作りあげ、今までに無い工夫された作品になっておりました。初めてお目にかかるタイトルもありました。虹筆絵(にじでま)というのでした。色鉛筆画も今回初めてのタイトルでしょうか。山野草が色鉛筆で爽やかに描かれておりました。

工芸の部屋には、木の実を活用したトトロやふくろうが



ステージ発表会



作品展示会

沢山並んでおり部屋に入った人が思わず、ニコツとするような作品に仕上がっています。茶道の方々には、来場者のために心温まるおもてなしをいただき、鑑賞と交流の場に一服の安らぎをいただきました。

今回の文化祭において、こうした多彩の作品を提供していただいた皆様には本当に感謝申し上げます。アンケートを拝見いたしますと、殆どの方が好意的に受け止めておられ、作品の素晴らしさに感嘆の声を寄せられ、この文化祭の継続を強く願っていることが良く分かりました。改めて花北地区の芸術文化の高さを感じたところです。これからもこうした機会を大いに生かし自ら楽しみ、研鑽し、お互いに交流し合い、その発展に努めていただければ幸いです。